

4つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小手澤の森
第1・3日曜日



知足の森
第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp



No.635-636

夏の体験学校のために底沢の点検、整備をしました

【定例活動報告】

ハチが7月から10月にかけて活動しています。本会の活動でも巣の1m手前でアシナガバチに刺されたり、ソーメン流しの竹材捨てた駐車場でスズメバチの巣が見つかりました、私もまちだ結の里の梅林で刈払機でキイロスズメバチの巣をかり右足と右手を刺され、ポイズンリムーバーで60秒吸い出し抗ヒスタミン剤を塗りましたが腫れてきたので水で洗い冷やしたので30分程で引きました。午後は自宅で休憩し吐き気ないので安心しました。その後の注意として患部を揉まない、ハチの種類の特定。患部をさわった手で目をこすると結膜炎になる事知りました。以前ハチに刺された方はアナフィラキシー症状が出やすく血圧低下（顔が青くなる）、発疹、吐き

緑のダム北相模は相模原
市内で活動する森林ボラ
ンティアです。急がず、無
理せず、楽しく、休ま
ず、ボチボチと・・・



気、全身症状が出たり、頭や首に一度に沢山刺された人は救急車で病院へ行きましょう。

ハチの種類についてはアシナガバチ類、スズメバチ類、ミツバチ類の3種が多く、アシナガバチ類は26ミリで細めで後足が長く胴体と足が黄色おとなしいけど毒はあります。スズメバチ類は27～40ミリと大きく毒性、攻撃性があり、毒針でさしたり、霧のように撒き散らします。7月～10月まで活動し事故も多いです。ミツバチ類は集団で生活し巣で蜜を作り、づんぐりで毛がありますが一度刺すと毒針に返しがあり抜けず、ミツバチは死にます。スズメバチと遭遇した時は身体を低くして飛び去るのを待つ、巣が近くある可能性在りますので速やか移動しましょう。

石井 明男（本会、理事）

【定例活動報告】 知足の森

私は現在、大学で荒廃地土壌の研究を行っています。人の手で管理されている森林と自身の研究対象地である荒廃地を比較することで、研究を進める上での参考にしたいと考え、友人が活動している森林ボランティアに参加しました。午前中は伐木作業を行いました。一見健康そうに見える木でも上部が枯れて腐っているものがあるなど、普段山を歩くだけでは気づかない森林の一面を知ることができました。また、光の入り方によって下草の生え方に違いが見られたことも印象的でした。午後に行った毎木調査は大学の実習でも経験がありましたが、今回の森林では木が太く下草も多く、大変ではありましたが貴重な経験となりました。今回の活動を通じて森林管理の重要性を学び、今後の研究に活かせる視点を得られたと感じています。

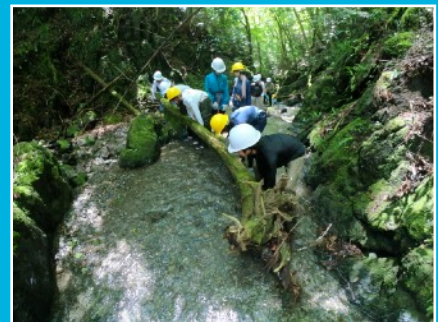
中川 たまき（東京都立大学都市環境学部地理環境学科4年）

今日は、相模湖駅からバスで5分くらいの場所にある沢に行きました。この沢では8月16日に小学生を対象にした沢体験のイベントが行われるため、小学生が安全に沢に入れるように整備しました。整備の内容は主に、倒れている木の撤去や笹の伐採です。沢の底には苔が生えていて、とても滑りやすかったです。また、細かい砂利が靴の中に入り痛かったため、沢の中を歩きながら作業するのは大変でした。上流に行く途中、森の方から倒れている長さ3m直径50cmほどの木がありました。8人がかりで沢の方へ引っ張りましたが、非常に重く、動かすのに時間がかかりました。移動した木は、玉切りして森に返しました。イベント当日は、僕たちが整備した沢で小学生が楽しんでくれるといいなと思います。

柴田 洸太郎（GTE LAB 中学1年男子）

今日は沢の下見でした。沢の下見では8月に来る小学生が安全に沢に入って楽しめるように主に倒木などを端に寄せて通りやすくするという活動をします。沢なのでとても冷たくて苔などによりもともと地面が滑るし、大きな石が多くて危ない中倒木を切ったりするということがとても大変です。また熊や虫(主に蜂)、魚など自然の生き物も多いため危険も多いです。ですが、沢のたった一部でも綺麗になるととても達成感があります。この沢の下見という活動から足先しか浸からない程の浅さでも滑って転んでしまいそうになるため危険だということと、足元が見えないという恐怖感もあるということと、一つの事をやり遂げることの達成感と楽しさが分かりました。私は8月の沢に行けるかはまだ分からないのですが、小学生の子たちが安全に沢を楽しめるように活動することが出来て良かったです。この経験を生かして森の活動や日々のラボの活動を頑張っていこうと思いました。

飯塚 美月（GTE LAB 中学2年女子）





桜井尚武の 森のコラム

「クズ (*Pueraria lobata*) 」



図1 クズ

20070825 信濃川上長野県



図2 スギに被さるクズ

20101114

茅ヶ崎里山公園



図3 クズの花

20240915 小原相模湖



図4 クズの実

20230828 つくば市

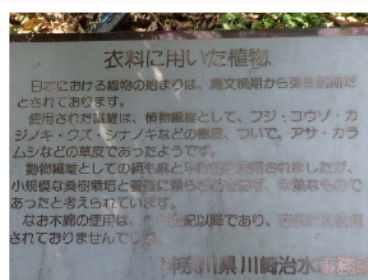


図5 繊維植物説明版

20191010 東高根森林公園川崎

マメ科の多年草。木性の蔓植物に用いる藤本として紹介する文献もあるほど草か木かの区別は解りにくい植物です。冬に地上部は概ね枯れてしましますが木化した蔓（幹）は生き残り春には新たな芽を発生させるので多年草というより木性藤本とするのが妥当でしょう。春に蔓を伸ばしその蔓に3子葉の葉を互生します（図1）。蔓は一般的には10m～20m以上に伸び、辺りの植生や樹木に這い登って覆い被（かぶ）さり時に枯らしてしまうので植物愛好家や林業者からは嫌われます（図2）。花は8～9月頃葉腋から出る総状花序に2cm位のマメ科特有の蝶形花を密につけ、旗弁の中央に黄色斑が目立ちます（図3）。花はよい芳香を発出しますので嗅いでみてください。花後はマメ科特有の鞘（さや）に包まれた種子を沢山着けます。充実した種子は少ないといいますが沢山着けるので種子量は豊富です（図4）。

山野の開放地がこの種の主な分布域ですが繁殖力が旺盛なため人家の周りの空き地にも普通に繁茂し矢張り嫌われています。沖縄を除く日本全土と朝鮮、中国、東南アジア、太平洋諸島と広範囲に分布します。好適立地は地力の豊かな所、特に土壌が深く水分が豊富な所ですが乾性地等でも生育できます。

古くから人々はこのクズの有用性を知って様々に利用してきました。秋の七草に数えられているように身近なものでした。葛餅、葛湯、漢方薬の葛根湯は今でも身近にあります。このクズの木化した太い根茎を砕いて潰して中に含まれるでんぷんを取り出して晒して精製した葛粉を製品として売り出したのが奈良吉野の国栖（くず・くにす）の人だったことからクズという名前がついたという説があります。国栖の人の製造でないクズを分けて葛と名付けたともいいますが中国語では葛の字を当てているのでこの利用というのが本当かも知れません。

ヒトが氷河時代を生き抜いた技術の一つに布の発明があります。その原料の繊維としてクズは有意なものでした。正確にはわかりませんが縄文時代以前から利用されていたという説があります（図5）。

これらに加えて重要な情報は、アメリカを侵略する植物としてクズが大変な脅威になっているということです。1876年のフィラデルフィア万博に飼料作物・庭園材料として出品されたクズがその後緑化土兼流亡防止用として、また家畜飼料として政府の推奨を受けたのですが繁茂し過ぎて猛威を振るっているといえます。現地ではKudzuと綴ってカズと発音するのですが駆除に苦慮しているそうです。

桜井 尚武（本会、会員）

【活動報告】 積水ハウスマッチングプログラムMeetUp2025に参加しました

先日、本団体もご支援いただいている積水ハウスマッチングプログラムの団体が集まり、相互に交流できるイベントである積水ハウスマッチングプログラムMeetup2025に参加しました。当日は、普段あまり交流する機会のないジャンルや地域の団体の方々や、子どもとの関わり方にさまざまな工夫をされている方々とお話しすることができ、とても新鮮で刺激的な時間となりました。特に子どもたちが自由に発想できる環境作りについての話し合いを通して、これまでにない視点や取り組みを知ることができ、自分たちの活動を見つめ直す良いきっかけにもなったと感じています。また、会場となった梅田スカイビルはその特徴的な建物の形が印象的で、次に取り組む積み木作品の題材にもなりそうだと感じました。今回の学びを、これからの活動につなげていきたいと思います。

永田 桃夏（東京都立大学都市環境学部地理環境学科4年）



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴、なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム

国土緑化推進機構・緑の募金

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、

(社) さがみ湖 森・モノづくり研究所



緑の募金

